

鹿ノ又沢支流二の沢（仮称） 1991年5月18日

二の沢(仮称)は、ずっと暗い樹林帯の中の登りである。林道から、鹿ノ又沢本流を渡って取り付く。黒い頁岩かチャートの上を流れる沢で、小滝が5個かかっている。その中で、4番目の3m滝がちょっと面白い。落差は小さいが、大きな釜をもつ小滝である。左岸の岩場の上にルートを求めれば簡単に越せるが、それでは面白くない。釜の左岸をへつるようにして取り付くが、ホールドが細かく、ちょっと苦勞した。

あとは暗いが平凡な登りが続く。右に支沢を2本分けると、もう沢はおしまいである。明るい造林地に飛び出し、沢は細いミゾと変わってしまった。

(記・

[タイム] 二の沢出合(8:15)→終了(8:45)

大戸岳周辺の沢

白松沢右俣 1991年7月27日
L補

二俣まで西・小野パーティと同行する。9時25分、中俣に入る西・小野パーティと別れて右俣に入る。登るにしたがって斜度はきつくなるものの、滝はかからない。支沢も両側から1本ずつ入っただけで、単調な沢である。

10時10分、ついに水が濁れてしまう。濃いヤブを登ること50分、ようやく平坦な稜線に出る。今までのヤブほど濃くはないが、大戸岳への登山道に出るまでは、更に30分間のヤブこぎが必要であった。12時大戸岳の山頂に到着。

(記・

[タイム] 白松沢出合(7:25)→取水堰(7:35)→右俣出合(9:10, 9:25)→沢終了(10:10)→大戸岳(12:00)

鹿ノ又沢支流口の沢(仮称)

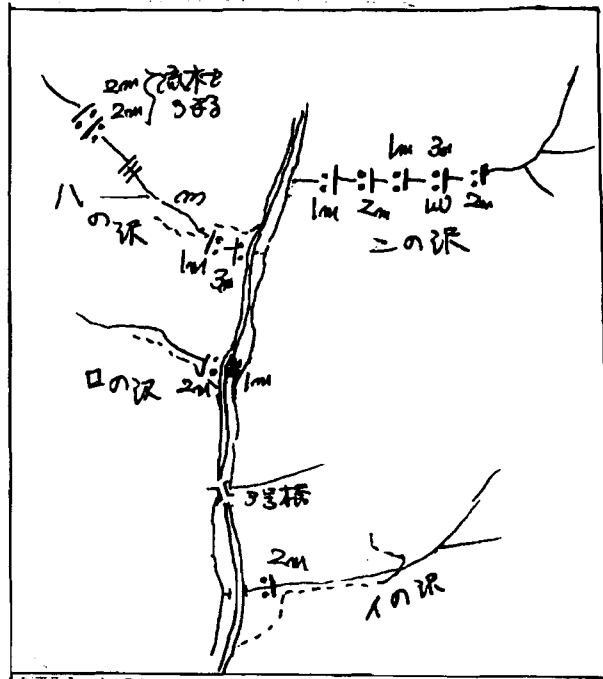
1991年5月18日

口の沢(仮称)は、林道のすぐわきに小滝をかける。はじめから沢の規模は小さい。おまけに出だしは腐りかけた流木の山との戦いである。うっかりしていると、ズッポリ足を突っ込んでしまう。伐採した時の残渣のようである。

流木の山を乗り越えると、今度はブッシュとの戦いである。強引に突破するしかない。とにかく前へ前へと進む。ようやくブッシュ

帯を抜け出した時には、沢はもう細いミゾ状の流れとなっていた。それを未練がましく更に15分程遡って、遡行終了とする。 ()

[タイム] 口の沢出合(7:00)→終了(7:30)



鹿ノ又沢支流ハの沢(仮称)

1991年5月18日

ハの沢(仮称)は、出だしに小滝を2つかけている。これを越えると、あとはもう細い流れでしかない。それでも更に暗い樹林帯の中を進む。やがて流木の山に出合う。これも伐採の時の残渣のようである。乗るとすぐ折れて、足をとられるので、やっかいである。ここを突破すると、すぐ若い造林地となり、沢の流れは流木の下に消えていた。 ()

[タイム] ハの沢出合(7:45)→終了(8:00)